

# ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) : 第二外国語教室でのオンタリオ州の試み

教師と学習者サポート:  
教授法と評価法

Maureen Smith  
Director  
Canadian Association of Second  
Language Teachers (CASLT)

# アクティビティ



- これから話す相手を、近くから1人選んでください。
- 始める前に、以下のことを簡単に考えてください。  
あなたの学生評価法  
あなたの地域では現在何に焦点を当てていますか？  
このセッションで得たい評価についての特定な情報は？
- あなたが選んだ人にあなたの考えをシェアしてください。
- 数分後: ディスカッションで得たことをシェアしてください。

# オンタリオ州の現状

## フランス語を第二言語として学ぶ学生数 (2015-2016)

- 979,269 名 French Second Language classrooms:  
828,502 (小学校)      150,767 (高校)
- 733,451 名 French Core :  
622,234 (小学校)      111,217 (高校)
- 33,104 名 Extended French
- 212,714 名 French Immersion :  
183,382 (小学校)      29,332 (高校)

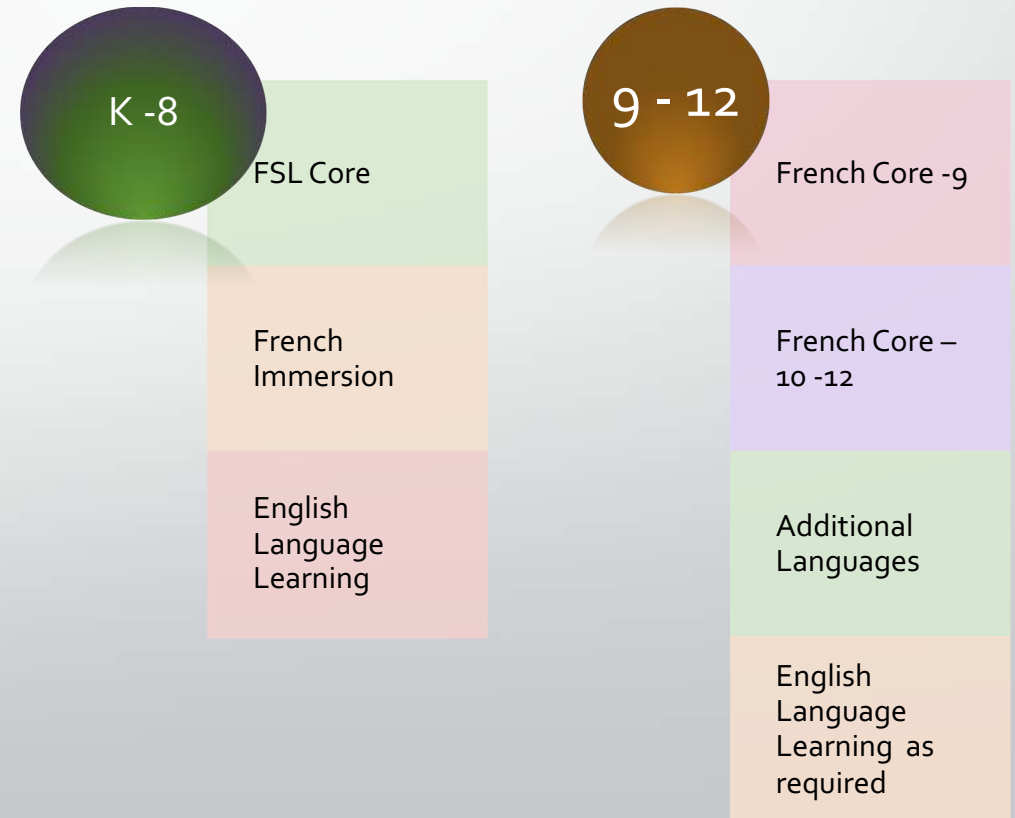
\* <https://www.ontario.ca/data/french-second-language-enrolment>

# FSLプログラムとFSL学生の成功率向上のためのオンタリオ州政府の決定

- パブリックオピニオンが動機となる：懸念
  - French Core (ages 9 – 14) の毎日の必修クラスでも基本レベルの話す力がつかなかった。
  - proficiency skillsを磨けあげることができなかった French Immersionの学生は、主に英語で行る 大学進学準備のためプログラムを辞めてしまう。

# オンタリオ州の公立およびカトリックスクール における生徒の取り組み姿勢に対する懸念

- FSL Core – 強い抵抗
- French Immersion- 高校入学までほとんどの学生にとって非常に良い
- English Language Learners- 非常にやる気があり、熱心な取り組み – 教室外での練習
- Additional Language classes – 非常に熱心な取り組み \*しなしながら、必須科目以外の時間での履修のため、スケジュール調整が難しい



# 教育省フランス語部門の模索...

French Coreの終了時の成績の向上を促進する。

必須であるFrench Core L2の授業をより意味があり、参加型のクラスにする。

さらなる教師のトレーニングを行う。

教室外で、将来の職場で、そして余暇に、自信を持ってフランス語を使える生徒の数を増やす。

高校でのFrenchイメージの継続率を上げる—将来の職場で、そして余暇でのフランス語使用。

専門家によって集約された以下の点に留意する。

第二言語としてのフランス語および追加の言語の能力に関するオンタリオ州教育省の具体的な期待値

全教科共通の具体的な学習内容

オンタリオ州内の学校のすべての生徒の上達を報告するために規定された具体的な評価政策

現在の教員の教授法を発展させる。

# CEFRはなぜオントリオ州政策担当者やカリキュラムデザイナーの興味を引くのか

- いかなる国内、州内の試験やカリキュラムと置き換わるものではない。
- 共通の物差しに沿って学習者の上達を追記的に記述できる。
- 学習の各段階において、読み、書き、聞く、話す活動の中で、学習者の視点を“Can Do”「何ができるか」ということにおく。
- Action Oriented Approach- 継続した評価と頻繁な振り返りのための活動タスクとシナリオ

A Basic	B Independent	C Proficient
A1	B1	C1
A1.1 to A.1-5		
A 2	B2	C2

[CEFR Global Scale](#) : COE

専門家は、他の言語を理解するための手段が  
いかに複雑であるかを検討する。

CEFRは私たちに、「他の言語をうまく理解する  
ために、すべての単語を覚える必要があるの  
か」という疑問を投げかける。

Wa wa ta...

Luganda song

- この歌の意味を理解するためにどのような方法を使うか？
- 内容？
- 言葉の音やリズム？
- ジェスチャー？



# オンタリオ州 2 年間研究プロジェクト開始

- Question: K- 1 2 生徒が、自身の学習目標の正確なモニター・自己評価をできるかどうか？
- Question: 生徒は本当に自分の成績を評価できるのか？つまり、生徒のする自己評価ににどの程度教師が信頼を置ける自信があるか？
- French Core と French Immersion プログラムの 2 年間の研究
- ウェスタン大学とロンドン地区の 2 つの学区教育委員会のチーム。
- の参加を呼びかけられた 63 の学区
- 教育委員会のうち 60 会が参加。

# 教師研修を含む研究プロジェクト

- 世界規模で利用されているCEFRへの紹介
- [Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment.](#) (Cambridge, 2001) を配布。
- 教師が在アルトハウス教育学部（ウェスタン大学）教育委員会オフィスで、インフォ・トレーニングセッションに参加。
- アンケート調査施行時に、ウェスタン大学の研究者とそれぞれの地域の教師合同でのインフォーマルな会合。

# 行動中心的（Action-Oriented） アプローチへの模索

- リソース: 各レベルでの、共通アクションタスクキットを制作。
- タスク: オンタリオ州規定のカリキュラムガイドライン併用で使用するものを制作。
- 教師によっては、自分の教材を自身の練習用に、開発するものも出た。
- 教師・学生の自己評価・反省
  - 生徒のシチュエーションに関するコンピテンス) をテストするためのタスクをひとつ選ぶ。
  - 数回テストを繰り返す

学習者自己評価一数次回施行

評価法:

特定のレベルに即し、かつオンタリオ州カリキュラムの幾つかの期待の焦点を強化しているタスクのCEFR ディスクリプター。

生徒の自己判断:

- 自分は何を知っているか? (内容)
- どうしてそれがわかるか? (コミュニケーション・社会言語的スキル)
- 今後の方向性? (個々の学習者に最適なストラテジー)

# 結果:

ポジティブ！ 4、8、10、12年生の外国語学習者は正確に自分の理解度・達成度が評価できた。

-教師は、自分が各生徒に与えた評価と生徒の自己評の間に、直接的相関関係があることを発見した。

## 研究結果文献:

Faez, F., Majhanovich, S., Taylor, S., Smith, M., Crowley, K. (2011). The power of "Can Do" statements: Teachers' perceptions of CEFR-informed instruction in French as a second language classrooms in Ontario. *The Canadian Journal of Applied Linguistics*, 14 (2), 1-19.

Faez, F., Taylor, S., Majhanovich, S., and Brown, P. (2011). Teacher reactions to CEFR's task-based approach for FSL classrooms. *Synergies Europe*, 6, 109-120.

# 州によって取られた対策

州のリソース:

[「外国語としてのフランス語」 枠組み](#)

[内省的実践のためのガイドー「Core French」](#)

[10の素晴らしいアイデア-CEFR（仏語版）](#)

[教師のためのオンライン講座](#)

[ツールキットー特別支援が必要な生徒も含めて](#)

[新米教師のためのハンドブック](#)

[効果的な評価の実践](#)

教師は追加トレーニング（州全域でDELF（フランス語学力資格試験） トレーニングセッション）を受講

Core FrenchとFrench Immersionの生徒たちはDELFテストに参加

[新しい研究「オンタリオ州のCEFR: 教室実践を変える」](#)

オンタリオ州現代言語教師会オンライン講座 <https://www.omlta.org/resources/webinars/>

# 行動中心のペア・アクティビティー

ある友達のためにパーティーを計画しています。一人はシンプルなパーティー、もう一人は凝ったパーティーをしたいと思っています。

次の表現を使いましょう

～たら、

(あなたの見方は) ～けど、

～って言った？

～たらどう？

# B1の活動タスク: 何を評価する?



オンタリオ州カリキュラムの内容記述

# 活動タスク：シナリオ – 自己評価サンプル

- 全体的な記述：議論が構築でき、他人がついていくのに苦労しない
- 下位記述：
  - B1 は簡潔に理由や意見・計画の説明を述べることができる。
  - 相手の意見を理解し、反応することができる。
  - 自分の立場を論理的に相手に説明することができる。
- CEFR記述と関連づけられた学習指導要領



# 学生は次の項目を記入

- 既習言語
- シナリオ（場面）で使用する技能
- 3-word scale（難しい・支援ありなら可・易しい）あるいは自己評価ポイント（Scale 1～5）でそれぞれのカテゴリーにおけるパフォーマンスを評価
- ディスクリプターに関する次のアクションタスクのゴール

# B1 アクションタスク Action Task

CEFR: ほとんどの場合、問題なく討論できる。

ここに関連する州のゴール

- 場面に合った語彙を使用する。
- 理論的でシンプルな議論を展開する。
- 意見や計画の理由づけ・説明に必要な文法を使用する。
- ある程度の躊躇と自己修正を含みつつ流暢に話す。
- その場で他者の考え方が聞ける。
- ほとんどの場合、反対の考え方も理解する。

• 1 2 3 4 5

• 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

• 1 2 3 4 5

• 1 2 3 4 5

• 1 2 3 4 5

• 1 2 3 4 5

合計点

: \_\_\_\_\_

私にとって有効だったストラテジー:

---

---

次の機会に試したいこと:

---

---



# CASLT リソース

